

カリキュラム

機構施設名：岡山職業能力開発促進センター

実施機関名：株式会社日本能率協会コンサルティング

A. バックオフィス	DX(デジタルトランスフォーメーション)の導入
システム導入	

コースのねらい	自社の業務変革を目指して、業務のシステム化に向け、自社のニーズに合致したシステムを企画できる知識を習得する。
---------	--

講義内容	「基本項目」	「主な内容」	訓練時間(H)
	1 DX導入手法とデジタル技術の活用	(1)DXとは DXの定義やその捉え方についてわかりやすく解説する。 実際にDXを推進する企業が押さえておくべきポイントにフォーカスし、知っておくべき知識を整理する。 (2)デジタル技術の適用領域 デジタル技術を活用した改革アプローチにはどのようなものがあるのかをわかりやすく解説する。 「身近な課題解決」「業務プロセス全体の最適化」「ビジネスモデル変革」の3つの視点からDXの適用ポイントを解説する。 (3)ものづくり企業に見るDX推進事例 上記3つの視点からものづくり企業各社の先進事例を解説し、自社で適用する際の勘どころを整理する。 (4)DXのキーテクノロジー IoT、AI、クラウド、デジタルツインといったDXを支える最新技術を概括的に理解する。	2.0
	2 DX導入手順	(1)DXの企画 DXの3つの視点毎にDXの適応領域や技術は異なる。ここでは3つの視点毎にDX企画のポイントについて解説する。 【演習：自社の課題と解決方向】 (2)デジタルソリューションの選定 日進月歩で進化するデジタルソリューションから自社にフィットするものをどのように取舍選択するのか。 失敗しないデジタルソリューション選定の方法とその検討プロセスを解説する。 (3)プロジェクトマネジメント 社内社外含め多岐にわたるステークホルダーを統制し、DXプロジェクトを成功に導くマネジメント方法について解説する。	2.0
	3 システム開発手法	(1)DXプロジェクトの推進プロセス全体像と担当者の役割 システム開発を考えるにあたり、DXプロジェクトの全体像を改めて解説し、各プロセスにおいて自社担当者が果たすべき役割と具備すべきスキル要件について言及する。 (2)システム開発のプロセス DX実現に必要なシステム開発の流れを解説する。その中でユーザー、パートナー(ベンダー)の役割についても言及する。 (3)外部パートナー活用 SIerやシステムベンダーに対してシステム構築・リプレイスを依頼する際に、自社システムに必要な要件や実現したい業務(解決したい課題とあるべき姿)などを示す書類として「RFP(Request for Proposal)」がある。RFPの書き方や記載すべき内容を解説し、パートナー企業選定のポイントを解説する。	1.0
	4 DX推進検証	(1)失敗しないDX推進 ミドルアウト・アジャイル開発・スクラム開発・PoC・・・ 昨今話題のキーワードを理解しつつ、DXの効率的・効果的な推進を解説し、自社に合った検証方法を整理する。 (2)成果創出に向けた「現場」の役割 デジタルソリューション導入後の現場の苦悩やその打開方法について解説する。DX先進企業の事例からDX効果検証のプロセスやその方法について考察する。	1.0
合計時間			6.0

カリキュラム作成のポイント

DXに向けたデジタルソリューション導入の一連のプロセスと各プロセスにおける必要知識や実務適用のポイントを網羅的に解説する。話題のAIにも焦点をあて、DX導入時のAI適用の可能性について、技術的・現実的に検討できる知識の醸成をねらう。

訓練に使用する機器等

●機器・ソフトウェア(受講者用)	●機器・ソフトウェア(講師用・その他) ・PC(講師用) ・プロジェクタ ・スクリーン ・ホワイトボード
●使用するテキスト ・オリジナルテキスト	●その他 ・オリジナルの問題演習を通し、講義内容の定着を図る。

利用事業主に用意を求める機器等

・プロジェクタ ・スクリーン ・ホワイトボード ・マーカー(赤・黒)	備考
------------------------------------	----